



前号のおさらい：白金のCCI

発行日：2014/4/11



前回3月28日発行のテクニカル分析において、「東京白金はCCIがマイナス129と下落しているが、ボリンジャーバンドが拡大していないため売られ過ぎと判断でき反発しやすい。CCIが上向きまたはマイナス100ラインを上抜いた時点で上昇を始める可能性が高い。」と分析した。レポート直後の夜間取引で大きく上昇し、CCIがマイナス100に戻すと4月7日の4890円まで大きく上昇した。現在高値から一旦下落しているがCCIは0ラインを上回ったままで、上昇トレンドは継続している。ボリンジャーバンドの上限または、CCIの100超えを目指す展開となるだろう。

TOPICS 一目均衡表と平均足とは

一目均衡表は、「基準線」「転換線」「先行スパン1」「先行スパン2」「遅行スパン」から構成される。これら5つの値は、一目均衡表を見ている人全員が共通で認識できる数字のため、いわゆる節目として機能する場合が多い。すべての線が支持線・抵抗線で、非常に重要なポイントになる。時間のベースとしては、「日足」チャートを用い、日数的には「9日」と「26日」が利用される。

ただし、正確にいうと、「遅行スパン」は現在の価格を26日間過去に遡って表示しているだけなので、節目の数字としては使えない。「基準線」と「転換線」の位置関係については、移動平均の中期線と短期線の関係をイメージするとわかりやすい。いわゆる、ゴールデンクロス、デッドクロスの概念と同様に、「転換線」が「基準線」を上まわれば買い時、下まわれば売り時と考えられる。

平均足(コマ足)は、値動きのブレを排除してトレンドをわかりやすく捉えられるようにローソク足に修正を加えた指標で、平均足を使うとトレンドを明確にとらえることができる。

平均足の算出方法は高値・安値はローソク足の高値・安値と同じで、始値と終値の計算方法が違う。始値は(前日始値+前日高値+前日安値+前日終値)÷4、終値は(当日始値+当日高値+当日安値+当日終値)÷4となる。

TOPICS 金市場を一目均衡表と平均足で見よう

NY金は戻り売りのタイミング伺う



NY金

NY金は転換線を越えて上昇してきた。雲のなかでは揉み合いとなりやすいがしっかりと上昇している。

ここからは、雲の上限も上昇していくなかで、雲から抜け出すことも難しくなってくる。抜け出せたとしてもすぐに基準線が控えており、一気に上昇するのは難しそうだ。雲の上限または基準線を越えられずに平均足が陰転したタイミングで戻り売りとなる。

東京金は揉み合いで上昇厳しい



東京金

東京金は雲の上限に沿うかたちで推移している。一昨日に平均足が陰転したが、昨日は再度陽転するなど方向感がない。

NYより反発上昇の力が弱いこともあり、今のところは転換線と雲の上限に支えられているが、いつ下落トレンドが再開してもおかしくない状況だ。

上値の限界は基準線のある4400円程度、下値は雲のなかでの揉み合いとなるか、雲の下限を越えた場合には4200円程度。

TOPICSs 他市場はどうか

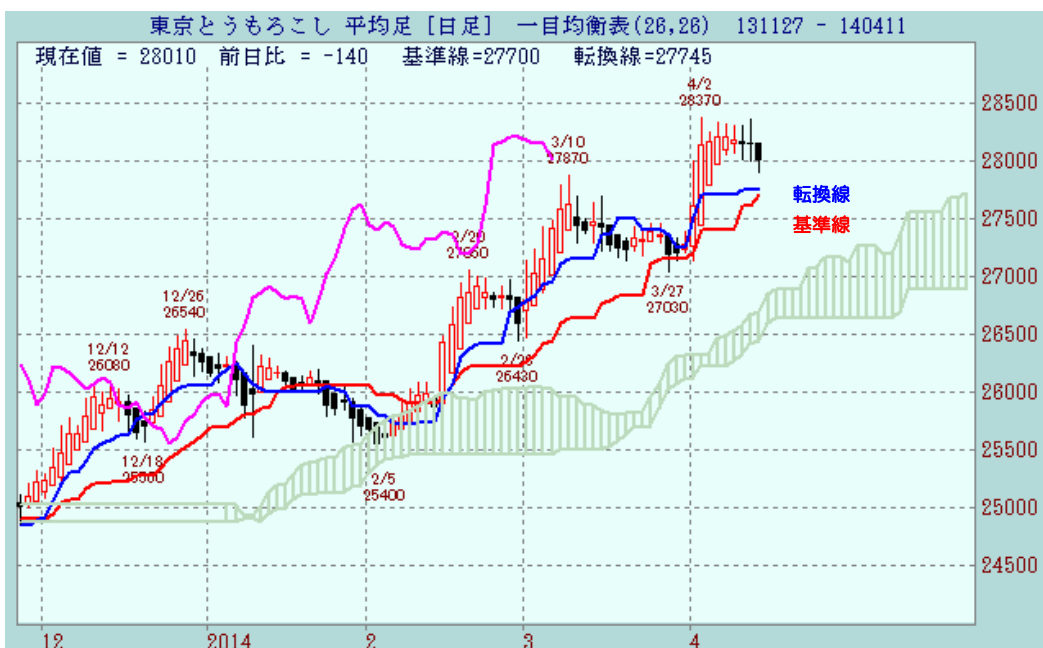
東京白金は再び上昇か



東京白金

東京白金は高値から一旦反落したものの雲まで到達することなく、上昇中の転換線に沿うかたちで反転上昇してきた。転換線が基準線を上回りゴールデンクロスしたこと、平均足が陽線に転換したことから、再び上昇基調になることが予測される。4月7日の4890円が目標で超えれば5000円を目指す動きとなるか。

東京とうもろこしは下落調整か



東京コーン

東京とうもろこしは2月から上昇が続いている。一目均衡表の線もしたから順番に雲>基準線>転換線>遅行線となり強い上昇基調と言える。ただ昨日平均足が大きく陰線となったことにより、一旦調整の可能性が高まっている。基準線や転換線までの下落が想定される。また、さらに下落し転換線が基準線を下回るデッドクロスとなった場合には、上昇トレンドそのものが変化し、雲を目指す動きとな

ドル円は方向性がない

ドル円



ドル円は4月4日の104円12銭から下落している。一旦雲の上に出たものの今度は逆に雲の下に出てきた。転換線が基準線に迫っており、デッドクロスした場合にはさらなる下落が予測される。

今後の予想

今週は一目均衡表と平均足を利用し分析した。

金市場はNY・東京両市場とも一旦雲に支えられ反発しているが、さらに上昇した場合でも基準線が控えており一気に上昇するのは厳しそうだ。特に東京金は反発の力も弱く、いつ下落が再開してもおかしくない状況だ。

東京白金は一旦下落したものの上昇する転換線に引っ張られるかたちで再上昇し平均足も陽転した。転換線が基準線を上回りゴールデンクロスとなったことで上昇には海が付くことが予測される。

東京とうもろこしは上昇トレンドだが、4月2日高値を超えられず平均足が大きく陰線になったことから一旦下落するだろう。転換線や基準線に支えられ再び平均足が陽線になったら押し目買いとなる。

ドル円は雲を挟んだ揉み合いと言えるが、転換線が基準線を下回りデッドクロスとなった場合にはさらに下落することを想定したい。

掲載される情報は株式会社コモディティー インテリジェンス（以下「COMMi」という）が信頼できると判断した情報源をもとにCOMMiが作成・表示したものです。その内容及び情報の正確性、完全性、適時性について、COMMiは保証を行なっており、また、いかなる責任を持つものでもありません。

本資料に記載された内容は、資料作成時点において作成されたものであり、予告なく変更する場合があります。

本文およびデータ等の著作権を含む知的財産権はCOMMiに帰属し、事前にCOMMiへの書面による承諾を得ることなく本資料およびその複製物に修正・加工することは強く禁じられています。また、本資料およびその複製物を送信、複製および配布・譲渡することは強く禁じられています。

COMMiが提供する投資情報は、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行動を勧誘するものではありません。

本資料に掲載される株式、債券、為替および商品等金融商品は、企業の活動内容、経済政策や世界情勢などの影響により、その価値を増大または減少することもあり、価値を失う場合があります。

本資料は、投資された資金がその価値を維持または増大を補償するものではなく、本資料に基づいて投資を行った結果、お客様に何らかの障害が発生した場合でも、COMMiは、理由のいかんを問わず、責任を負いません。

COMMiおよび関連会社とその取締役、役員、従業員は、本資料に掲載されている金融商品について保有している場合があります。

投資対象および銘柄の選択、売買価格などの投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

発行元：

株式会社コモディティー インテリジェンス
〒103-0014東京都中央区日本橋蛸殻町1丁目11-3-310
会社電話： 03-3667-6130 会社ファックス 03-3667-3692
メールアドレス： kondo@commi.cc